

# 幼児の言葉と節づけの即興表現 (2) —三才児—



細 矢 静 子

はじめに

幼児に即興的に「うた」をつくらせること、また、それを劇に発展させることは幼児の創造性をのばす方法として大いに効果のあることを昨年の『幼児の教育』（六十四巻十一号）で、五才児について述べましたが、今回は三才児における即興的な音楽表現はどのようなかを調べてみました。

## —うたの場合—

### 一 対象

昭和四十年度に受持った三才児三十五名の内男児九名、女児二十六名。

### 二 時期

昭和四十年四月から一年間。

### 三 環境

幼稚園では創造性をのばすために必要な、民主的な雰囲気、安定、理解、勇気づけ、友だちとの交わりなど次のようなことを指導上留意した。

- (1) 依存的な生活から創造はうまれない。まず、自立させるために自分の身のまわりのことは、できるだけ幼児が自分でできるように毎日根気よく教えた。
- (2) 幼児と教師が親しみをもち、幼児が気がねしないで行動できるようなあかるい自由な雰囲気をつくった。
- (3) 自由遊びを中心として、各領域に関連をもたせた保育をした。
- (4) 絵画製作も幼児のつくりたい時に、幼児の考えでつくるように個別指導をした。
- (5) 毎日話し合いの機会をつくり、幼児が友だちの前で発表できるようにした。

(6) 幼児に自信をもたせるために、発達の程度に応じて励まし、友だちの間で認め合うようにした。

(7) 幼児の考えを大切に、できるだけ保育にとりいれた。

(8) 音楽的に特に留意した点。

(4) 生活習慣の習得に音楽を利用し、いろいろな団体的な行動を音楽の約束で動かした。例えば、遊びの後片づけのうた、静かにする音楽、立つ合図、座る合図、止まる合図をきめたり、また、幾人かに分けて行動をさせたい時は（手洗い、おべんとう、かえりの支度など）グループごとに和音を約束し、ドミソの和音があったら「かもめ」と称して羽ばたく動作をしてききわけ、ドミソのグループが行動し、ドファラの和音があったら「おほし」と称して星のきらめく動作をしてききわけ、ドファラのグループが行動をはじめると、音楽を生活の場に結びつけて行動をさせた。こうして行動をさせると幼児は音楽的感覚を身につけると同時に、静かに順序よく行動ができ、教師も大声で毎日同じことを繰返す必要もなく効果的である。

(4) 幼児の創作的な自由遊びに、うたやゆうぎの指導を合わせた。幼児はつきつきと遊びを考えますが、例えば「犬（こつこ）をはじめると、教師は語りかけるように「わんわんわん」（戸倉ハル作詩・小林つや江作曲）「かあさん犬とこいぬ」（与田準一作詩・磯部俊作曲）「犬のおまわりさん」（佐藤義美作詩・太中恩作曲）などを口ずさむ。幼児は目を輝かせてきき入り、す

ぐに一緒にうたいます。全員が集まった時にこれをとりあげ、犬ごっこについて話し合いをさせ、改めて、うたやゆうぎを教えたり「小犬のワルツ」（ショパン作曲）のレコードをきかせて自由表現させるなど、生活の中に音楽をどけこませるようにした。（そのためには教師は常に勉強して多くの曲を知っている、適切な選び方に心をくばらなければならない。また、できれば必要に応じて教師が作詩・作曲して与えられれば、幼児のうたへの関心とよろこびは一層大きく、望ましいことである。）

(4) 節つけのある会話練習を試みた。

(4) 自由遊びの時は、ピアノ、ハーモニカ、打楽器など自由につかわせた。

(4) 幼児がうたいたかったら、C・Mソングでもなんでも自由にならせた。

(4) レコードをきいて自由に動作をさせた。

#### 四 方法

幼児の即興的にできる言葉と節つけを教師が記録または録音し、これを分析した。

#### 五 結果

(1) 参加の種類（表1）（表2）

六月の末、M子はピアノに絵本をたてかけ、楽譜のつもりでうたを口ずさみ、思いのままにピアノをたたいている。教師はずばやくこれをおぼえて採譜し「M子ちゃんがかんなおもしろいうたをつ

M子をはじめてつくったうた

たぬきがほんなるときは たぬきのおなかは ふくらんで  
 いるときほんなるうた みんなのたほんより いいうたですよ

参加の分類〔表2〕

ひとりがつくった曲数	12	10	8	6	5	4	3	2	1
人数	2	1	1	2	2	3	4	5	15

つくったうたに刺激されて二期にはつきつきと自分からすすんでうたをつくりだし、三期にはほとんどの幼児が誘いかけると参加して、結局全員がうたをつくることのできた。また一年をとおしてみると一人で二曲つくった幼児が二名で以下(表2)のようになり半数以上が二曲以上つ

参加の分類〔表1〕

時期	最初の創作	創作したうたの総数
一学期	1人 (3%)	2
二学期	13人 (37%)	28
三学期	21人 (60%)	83
合計	35人 (100%)	113

くったのよ」といって皆にうたてきかせた。M子はうれしそうに、「もつとつくる」といって用意してあったマイクにむかってうたいた。M子の

即興創作の分類〔表3〕

① 旋律として扱えるもの	45%
② 朗詠調	20%
③ 部分的節づけ	12%
④ かえうた	3%
⑤ 話し言葉	14%
⑥ 記憶していたうたを創作のつもりでうたったもの	6%

① 旋律として扱えるものの例

うさぎはみんな うさぎはみんな ピョンピョンとぶ  
 ピョンピョンとぶ どしてもどしても ピョンピョンとぶ ピョンピョンとぶ  
 おばけだぞ おばけだ おばけだ ぶるんぶるん ヒューン  
 ふにゃふにゃふにゃ ふにゃふにゃふにゃ ふにゃふにゃふにゃの ふにゃふにゃふにゃ  
 ふにゃ ふにゃ ふにゃ ふにゃ ふにゃ ふにゃ ふにゃ ふにゃ シュー

くっている。なお、参加においては男女の差はみられなかった。(2) 即興創作の分類(表3) 幼児の創作したうたを次の六段階に分けてみた。男児は②⑥が比

② 朗詠調の例

なんでもかんでも おしえます なんでもかんでも  
 おしえます なんでもかんでも おしえます  
 なんでもかんでも おしえます わたしはもとに おしえます

較的多かった。

② 朗詠調

ある一定のリズムの流  
 れがあるものでつぎのよ  
 うなのがあった。

りんごがね

ころころ ころころ

ころがって うみに

おっこっちゃって

そうして そこに

くじらがいた

そこは くじらの

うみだった

そうして りんごが

たべられちゃった

③ 部分的節づけの例

部分的に節がつかなく

なり言葉だけになってい

る。

④ かえうたの例

これは「ひよこのかく  
 れんぼ」と「お山の杉の

③ 部分的節づけの例

くまくんがね あるいてて そしてくまくんがあるいていました  
 はなが そこいらへんに おちて いました

④ かえうたの例

きりんさん おにわであそんで いたら  
 うさぎがでてきて こんにちは そうして もりの  
 どうぶつが きてみんなで あそんで一 よるになったら  
 もうねて そして一 ぐすりねて やったとさ

表現対象 [表4]

対象	①動物	②架空のもの	③おもちゃ	④生活	⑤人間関係	⑥植物	⑦乗物	⑧遊び	⑨食物	⑩自然
%	48	10	9	8	7	6	5	3	3	1

子」の二曲を合わせてつくっている。

⑤ 話し言葉

節は全くないが、この場合、幼児は節もつけているつもりである。

⑥ 記憶していた節を創作のつもりでうたったもの。これは幼児の場合よくあることで、今までにおぼえていたうたを創作のつもりでうたったもので「おすもうくまちゃん」「チキリッブ」などがあった。

(3) 表現対象 (表4)

動物が圧倒的に多く次に「こびと」「おぼけ」など架空のものをうたったものが多く、五才児と比較して②③⑨が新しく加わり⑩は極くわずかであった。

③ おもちゃの例

このピストルは ふしぎだな

このピストルで うつと

みんな こおりみたいになっちゃうよ

④ 生活の例

もみじぐみ もみじぐみ

さんがつおわれば もみじぐみ

はなぐみさんと あそんであそぶ

⑤ 人間関係の例

パパは はいしゃで はをなおす

みんなの おうちの はをなおす

⑧ 遊びの例

じてんしゃごっこ だいすきよ

いくらでも はしる

⑨ 食物の例

まめがおちてて ひろったひとはね あんまり

とつたらね みんながほしくなるでしょう

(4) 表現された気持 (表5)

① おどろきの例

だちょうって あしが ながいのね

うさぎさんよりも ながいのね

うしさん うしさん よろこんで

のほらで おちち だしてるね

ずーと ずーと だしてるけど

よるになると やめっちゃう

なんでも なんでも ねるからよ

③ やさしさの例

おにんぎょう

おにんぎょうさんは かわいくて

あそんでいる うた

表現された気持 [表5]

気持	①おどろき	②たのしき	③やさしさ	④疑問	⑤つくし	⑥同情
%	47	34	8	6	4	1

言葉の分類 [表6]

名詞	うさぎ	みんな	ぞう	注射	おはな	おうち	ライオン	きりん	木	ロボット
回数	30	19	17	14	14	12	10	10	10	10
名詞	不思議	こびと	うみ	くま	いぬ	へび	りんご	汽車	おばけ	幼稚園
回数	10	9	7	6	6	6	6	6	6	6
名詞	おみみ	自転車	ひよこ	さる	鼻	時	僕	おめめ	白鳥	朝
回数	6	5	4	4	4	4	4	4	4	4

動詞	あそぶ	あるく	形容詞	ながい	かわいい	副詞	どうも	なんでも	接続詞	そして	それで
回数	18	18	回数	12	8	回数	15	8	回数	9	8

④疑問の例  
 うさぎちゃん うさぎちゃん どうして  
 どうして うさぎちゃん どうして  
 うさぎちゃん うさぎちゃん どうして  
 どうして おみみが ながいのよ

- (6) 音の動きの分類  
 旋律構成の音符の
- (5) 言葉の分類 (表  
 6)
- (6) うつくしきの例  
 おはなはね  
 おめめをぱっちり  
 あけました  
 ひらくととても  
 きれいだな
- この表のほか二六  
 四の名詞がつかわれ  
 た。また、五才児で  
 は接続詞は、ほとん  
 どなく、三才児では  
 「ね」「よ」の接尾語  
 も多くつかわれた。

旋律構成の音符の分類 [表7]

音符											
%	8.4	50.4	24.8	1.0	7.1	0.5	0.6	0.7	6.5	数例	あった

調性 [表8]

調性	ハ調	ニ調	ホ調	ヘ調	ト調	イ調	ロ調	変イ調
%	41.2	25.5	1.9	5.9	5.9	7.9	9.8	1.9

音域 [表9]

音域	2度	3度	4度	5度	6度	7度	8度	9度
%	3.5	3.5	10.5	26.3	24.6	7.0	19.3	5.3
数多く でた例								

多く使われた実音の順列 [表10]

実音									
%	17.0	14.7	9.3	9.2	8.6	8.3	8.1	4.6	4.5
								3.4	

音程 [表11]

音程	1度	2度	3度	4度	5度	6度	7度	8度
%	47.9	28.0	17.9	5.1	0.8	0.3	数例	あった

分類(表7)では八分音符、四分音符が多くつかわれた。調性(表8)ではハ調、ニ調が多く音域(表9)は、五度六度が多い。このことは「ちようちよう」「ぶんぶんぶん」「シングルベル」「メリーさんのひつじ」(以上音域五度)、「おほしきま」「むすんで」「ロンドブリッジ」(以上音域六度)などの曲が古今東西を問わず子どもたちにうたわれているのはこれらの曲がうたいやすいためであるということがわかる。音程(表11)は同音進行、順次進行が多く、拍子(表12)は、三才児では三拍子はでてこなかった。これ



(2) 話の筋が幼児の生活に即して、しかも独創的にできたので、幼児自身、気にいり満足していた。

(3) 自分ではつくれない幼児も友だちのつくったものに興味を示し、たのしい雰囲気になった。

(4) 話の筋ができる片端から「はやく劇をしましょう」と積極的な行動を示した。

(5) 「うた」も言葉はつきつきと表現されたが、題材が固定されたので、旋律表現は、創作において言葉やゆうぎに比べ、やや消極的傾向がみえた。しかし曲の形になってきた。

(6) 教師がまとめて幼児全員に教えた時、わずか三日でおぼえ、掛け声や、擬音を自分たちで即興的にいれてたのしんだ。

(7) クリスマスの集まりにこの劇を発表し、子どもにも大人にも非常によろこばれ、その後も幼児の要求で度々再演した。

(8) 幼児がこの劇の話をする場合、どの幼児も、全部をひとりであうたい、ひとりでおどってみせた。中には家族の人たちを登場人物に参加させ、いっしょにたのしむ名演出もあった。

つきに「ふしぎなちゅうしゃ」の劇を記す。

劇へ発展させた場合、三才児でも、話の筋、うた、ゆうぎを積極的につくることができ、友だちといっしょにつくった劇を演じるよろこびは非常に大きく、このことは創造性をのばすと同時に社会性ものばすうえに大きな効果のあることがわかりました。

### ふしぎなちゅうしゃ

こびと登場 大きな注射をかついで音楽（補作につき記載省略）に合わせておどる  
「どっこいしょ」 注射を置く

これはふしぎな ちゅうしゃだよ このなかには

ね ふしぎなくすりが はいっている

(うたに合わせておどる)

- (すずをふる) 「これは、泣く注射だよ。」 (泣く注射をかつぎあげる)
- (たいこをたたく) 「これは、怒る注射だよ。」 (怒る注射をかつぎあげる)
- (チャイムをならす) 「これは眠る注射だよ。」 (眠る注射をかつぎあげる)

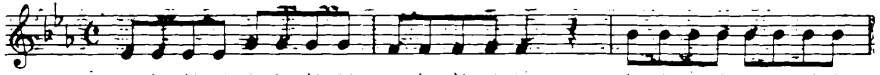
ちゅう しゃ だ ちゅう しゃ だ ちゅう しゃ だ よ

注射をかついで木にかけよる。  
音楽（記載省略）に合わせてシュー、シュー、と掛け声をかけながら泣く注射（りんご）怒る注射（バナナ）眠る注射（みかん）をそれぞれの木に注射する。終わってこびと退場



こぶた登場 「こぶたさん 一宮道子作曲」に合わせておどる  
 「おいしそうなりんごだわ。」 「たべだいわね。」  
 「たべましょう、たべましょう。」 「ムシキ、ムシキ、ムシキ、ムシキ……。」  
 「おや、おや？」

A

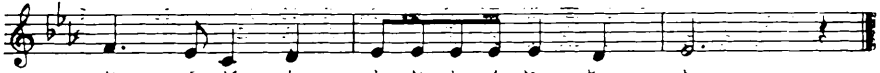


1. ふしぎだふしぎだ ふしぎだな りんごをりんごを  
 2. ふしぎだふしぎだ ふしぎだな バナナをバナナを  
 3. ふしぎだふしぎだ ふしぎだな みかんをみかんを



たべたらね ふしぎだふしぎだ ふしぎだな

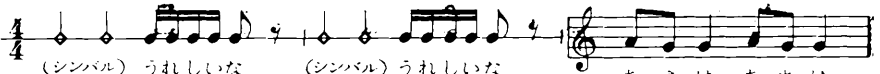
B



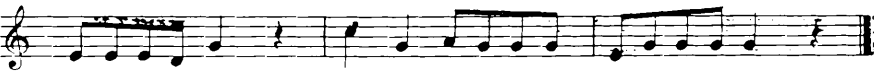
な なんだか かなしくなっ ちゃった

「エーン、エーン、エーン、エーン……。」 おた泣きながら退場

そう登場



(シンバル) うれしいな (シンバル) うれしいな あさは あさは



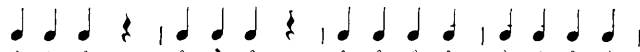
うれしいな だっ で バナナが たべられる

「バナナだ、バナナだ、バナナだよ。」

「ムシキ、ムシキ、ムシキ、ムシキ……。」

「おや、おや？」

④に戻り、②節歌詞をうたって次に続ける



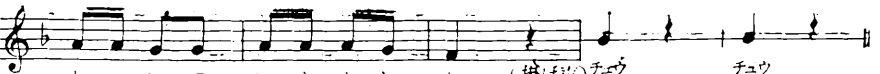
ブンブンブン ブンブンブン ブンブンブンブン ブンブンブンブン-----

そう怒りながら退場

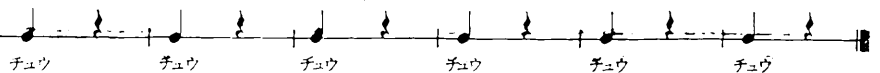
ねずみ登場



チュウ チュウ ねずみが とびだして しっぽを



かついで いきました (掛け声) チュウ チュウ



チュウ チュウ チュウ チュウ チュウ チュウ

「おいしそうなみかんだわ。」  
 「たべましょう、たべましょう。」  
 「ムシャ、ムシャ、ムシャ、ムシヤ、ムシヤ……。」  
 「おや、おや？」

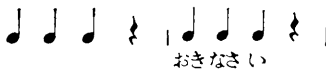
㊤に戻り③節歌詞をうたって次に続ける



ねずみその場に横になってねる。

こびと登場

「やあ、みんなねむっちゃったぞ。」  
 「おこせ、おこせ。」



楽器3回たたき「おきなさい」とねずみの肩を  
 軽くたたいてねずみを順々におこしていく  
 (タンバリン、ハンドカスタ、すず)

ねずみ「ウーン」あくびをして起きる

こびと「さあ、みんなでおどろう、おどろう。」

と呼びかける

全員「おどろう、おどろう」音楽(記載省略)に合わせて自由におどりおわる。

## まとめ

創造性をのほすような環境をつくり、適当な指導をすれば三才児にも「うた」劇、ゆうぎの創作が非常にたのしく活発にでき、表現内容も三才児ならではの独創的なものばかりで、創作的な表現活動はむしろ三才児から積極的にさせた方が幼児にじぜんな形で身につく効果的な発展が約束されることがわかりました。

近年、幼児の耳にする音楽は、テレビ・ラジオの影響もあってかなり高度なものでありますが、幼児はそれを消化して、むしろ新しい言葉を教えることに心を配っておりませんが、幼児自身で「うた」をつくるという活動はあまりすすめられていないようです。これは作詩・作曲ということを、大人がむずかしく考え、おそれているためではないでしょうか。幼児はうれいしい時には、自分の気持の躍動をしらすしらすのうちに、体を動かしたり、何かロずさんだりして表現しています。この三才頃の時期に適切な指導をして、幼児が「ぼくのつくったうた」「わたしのつくったうた」をうたうことができ、また立体的・総合的に発展させて「みんなのでつくった劇」を演じることができましたら、幼児のよろこびは非常に大きく、おそらく一生忘れることのない経験となり、幼児の創造性をのほすと同時に、豊かな人間形成の苗床ともなりましょう。今後も大いに続けていきたいと思えます。